

机上演習モデル事業（東京都多摩地域）

1. 演習の目的

- ① 停電時においてごみ処理事業を継続・維持するための必要事項・調整事項の検討
- ② 片付けごみの戸別回収の問題点、片付けごみの回収方法として戸別回収を選択せざるを得ない場合の対応事項・留意事項、住民へ協力を求める事項の検討

2. 演習の実施日時

- ・ A日程:12月24日(木)10:00~16:00
- ・ B日程:12月25日(金)10:00~16:00

3. 対象とした災害

- ・ 巨大台風(風水害)

4. 演習の対象自治体

- ・ 主に東京都多摩地域の市町村

5. 演習のテーマ

- ・ 停電時の対応
- ・ 片付けごみへの対応

6. 演習の手法

- ・ ファシリテーターから参加市町村に対して、災害発生時に頻繁に課題となることが多い事項を参加市町村へ投げかけ、参加市町村が回答する形式(問答形式)

7. その他特徴

- ・ 令和元年房総半島台風の被災地である館山市の職員や、支援経験が豊富な横浜市の職員にも参加いただき、自身の経験を参加者に伝えてもらう等、災害時の状況を具体的にイメージして演習に参加頂くよう工夫。
- ・ 参加者の回答は、記録係が記録することで、各自が成果を庁内に持ち帰ることができるようにした。記録係の配置することで、参加者が記録する時間を省略でき、演習に専念することを可能とした。



机上演習モデル事業(東京都多摩地域)



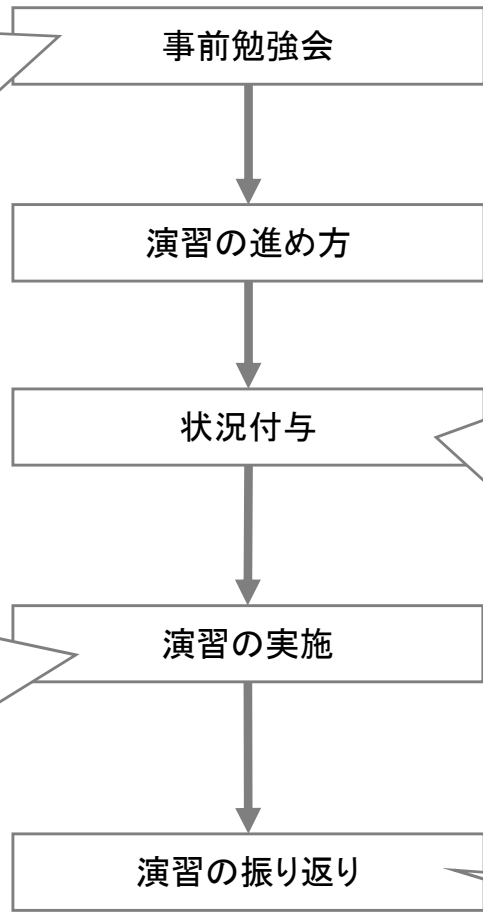
災害廃棄物に馴染みのない職員等に対してイメージ醸成や知識のインプットの場として、被災・支援経験を有する自治体職員による講演を実施

質問No. 6	被災 1 日後	回答時間：6 分
検討内容：片付けごみの戸別回収への対応 【質問内容：片付けごみの排出方法】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水被害等を受けた家屋は市内の広範囲に及んでおり、渋滞等の影響により生活ごみの回収も遅延している状況であるが、住民には片付けごみをどこに排出してもらおうか。理由も合わせて説明してください。 		
<small>出典：東日本大震災(津波)一橋大学宮古市・田老地区の被災状況(一橋大学立大学総合政策学際院 岡田長孝 助教、宇佐美純史)</small>		

災害発生後の各フェーズで起こりうる課題(複数題)を付与して全員で議論。課題は、過去の災害で頻繁に発生した課題を設定。

◆ 参加した自治体の感想

- 実際の災害の状況を想定して考える演習であり、自分たちが準備できていないことが分かった。
- 受け身の演習ではなく、考えて必ず発言する形式を採用しているのが良かった。
- 参加した他の自治体と意見交換して考えを聞くことができて参考になった。
- 環境省やファシリテーターから経験談を聞けるのがよかった。



被害の状況 (被災 2 日後)

自宅前等に排出されている片づけごみの状況

出典：館山市提供

時系列に、人的・建物の被害状況、交通(道路・鉄道・空港)、通信、ライフライン(電気・ガス・上下水道)、廃棄物処理施設の被害状況、災害廃棄物の排出状況等を付与

演習を振り返って、各自治体で不足している取組や持ち帰って取り組みたい事項を意見交換

◆ 進捗状況

合計2回の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、2回目は4月に降に延期。